



災害が発生したら

「巨大地震」が発生すると地震の揺れだけでなく津波による被害が懸念されます。

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意
- むやみに動かず、安全を確保
- 非常口やドアを開けて避難口を確保
- 避難は徒歩で、荷物は最小限
(火を扱っている場合は、身の安全を確保した後の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難
(本校のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動
- 負傷者の救護や初期消火に協力
- 家族との安否確認および学校へ安否連絡

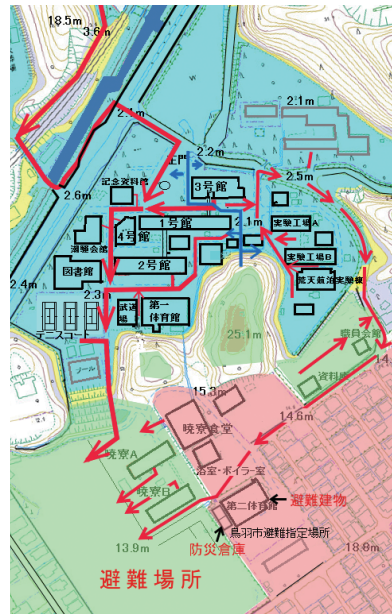
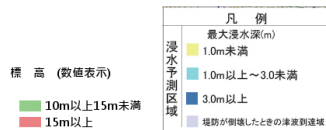


津波からの避難

学校にいるときに、地震が起きた場合は右の図のとおり、避難してください。

焦らず避難する

- 南海トラフ地震が発生した際は、強い揺れが数十秒以上続くと考えられますので、揺れがおさまるまで待って避難しましょう。
- 避難場所への移動中に物の落下があるので、頭を守って、歩いて焦らず避難しましょう。
- 避難場所についたら、学校からの指示があるまで避難場所で待機しましょう。
- 津波が引いた後も、後発地震や、繰り返し襲ってくる津波に気を付けて避難を続けてください。南海トラフ地震については「南海トラフ地震臨時情報」や「南海トラフ地震関連解説情報」に留意しましょう。



地震発生直後は裏面へ



学校への連絡方法

安否連絡について

大地震等発生した場合、Teams から安否確認用 Forms で安否確認用フォームをお知らせします。安否確認の回答をお願いします。ネット環境が整っていない場合は、下記のとおり学校に電話で連絡してください。

電話

0599-25-8000 (代表)

報告事項

- ①氏名、②学年・学科、③本人の状況、
- ④その他



家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。

📞 171 をダイヤル

録音 1	再生 2
暗証番号を利用する録音 3	暗証番号を利用する再生 4

被災地の方の電話番号を入力

伝言の録音 (30秒以内) 1*	伝言の再生 1*
------------------	----------

*ダイヤル式電話機の方は操作不要です。

電話番号 事前に記入しておきましょう

____ - ____ - ____

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービスです。あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社の二次元コードはこちら



NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク	http://dengon.softbank.ne.jp/
Web171	https://www.web171.jp/



もしもの時にあなたの身を守る

地震津波対応 マニュアル SAFETY GUIDE



鳥羽商船高等専門学校

緊急時パーソナルメモ

氏 名

学籍番号

学科・部署等

緊急連絡先

住 所

電話番号

血液型

持病 あり なし 常用薬 あり なし

アレルギー

あり なし ()

自宅近くの
緊急避難場所

家族との
待合せ場所

*記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

→ 揺れがおさまったら →

→ 落ち着いたら① →

→ 落ち着いたら②



今いる場所は
安全か？

YES
その場所を動かない

NO
緊急避難場所へ



安全な場所にある
自宅に歩いて
帰れるか？

YES
自宅へ

NO
避難所へ



POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼



学校(学寮)にいるとき

大きな揺れを感じたら

- **危険物から離れる**
窓や棚、ガラスなどが割れたり、中のあるものが飛び出しそうなものから離れる。
実習中や課外活動中などで、周囲に危険なものがある場合は、速やかにその場から離れる。
- **落下物から頭と手足を守る**
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場に座り込む。
- **出口を確保する**
ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。
- **揺れがおさまるのを待つ**
安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。

揺れがおさまったら

- **冷静になる**
余震の可能性もあるので、慌てずにしばらく様子を見る。
- **周囲の状況を確認**
周囲のものが倒れたり、落下してくるおそれがない場所に移動する。危険と判断した場合は、安全なところへ移動する。
- **初期消火**
火災が発生している場合は自分の身が安全な範囲で初期消火を行う。消火が困難と判断した場合は、速やかに火から離れる。
- **避難するときの注意点**
 - **「おかしも」を守る**
「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」を守り、教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難する。
 - **火災が発生している場合**
煙を吸わないように、タオルなどで口を覆う。
 - **階段で移動**
エレベーターは使用せず、階段で移動する。

津波に注意する

- 三重県は津波の被害を受けやすいので、出来るだけ早く高台に避難する。

緊急避難場所

- 緊急避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適している。
本校では、グラウンドを一次緊急避難場所としているので、避難を要する場合にはまずそこに避難する。
- 地震時の状況により、二次避難する必要があることも考えておく。
- 学校および担任などにより、安否確認作業が開始されるので、速やかに応答する。
- 自分の身が安全だったら他者を助ける。

通学生は、安全が確認されるまで学校にとどまる

- 余震が落ち着き、帰宅手段の安全が確認されるまで、無理に帰宅せずに、学校にとどまる。

寮生は、指示があるまで学校にとどまる

- 余震が落ち着くと、学校および学寮の安全確認を行うので、判断が下されるまで、安全な場所にとどまる。
- 避難所においては自分の身が安全だったら運営を助ける。

災害時
徒歩帰宅支援
ステーション

災害時の徒歩帰宅者を支援するために、災害時帰宅支援ステーションでは、「水道水」「トイレ」「道路情報」などを提供してもらえ。ハートに足をあしらったマーク入りのステッカーを店頭に掲示した、コンビニエンスストアやガソリンスタンド、ファミリーレストランなどがその役割を担っている。



通学中・学外

- 慌てず冷静を保つとともに周囲の状況に注意し、身の安全確保を最優先する。
- 電柱、ブロック塀、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 電車内では、つり革、手すりしっかりとつかまり、電車が止まっても線路には出ない。乗務員、駅員の指示に従う。
- 自動車通学、バイク通学にあつては、道路脇の安全地帯に停車し、安全を確保する。

- 被害状況を正しく把握する。
- 帰宅するか、登校するか、最寄りの安全な場所に避難するかは各自が判断し、速やかに行動する。
- 事前に把握している（決めている）緊急避難場所に移動する。
- 津波の危険性を考えて情報収集に努めるとともに、低地方向（海方向）には向かわない。
- 避難中は、警察や消防の指示に従う。

緊急連絡先

名前： _____
tel： _____
名前： _____
tel： _____
名前： _____
tel： _____
名前： _____
tel： _____
名前： _____
tel： _____

- 家族の安全を確認する。
- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切である。
- 災害時の歩行速度は、約2.5km/時、10kmには4時間を要するとされている。
- 日没後の行動は危険で、夜間には犯罪に巻き込まれる恐れもあるため、一人での行動は避ける。
- 無理せず緊急避難場所にとどまる。